



ヤマザキ学園は2017年、創立50周年を迎えます。

平成26年度 事業報告書

<目 次>

はじめに	1
1 学校法人の概要	1～7
(1) 建学の精神・教育目標	1
(2) 学校法人の沿革	1～3
① 設立年月日	2
② 学校設置年月日	2
③ 学園の沿革	2～3
④ 学園の組織表	4
(3) 設置する学校・施設の位置	5
(4) 学校・学科の学生数の状況	5
① 入学定員・収容定員・現員数	5
ア ヤマザキ学園大学	5
イ ヤマザキ動物専門学校	5
② 平成26年度中の学生・生徒の入試状況	5
ア ヤマザキ学園大学	5
イ ヤマザキ動物専門学校	5
(5) 役員（理事・監事）の概要	6
① 理事長・学長・校長等の異動	6
② 理事の異動	6
③ 監事の異動	6
④ 定員数・現員数・氏名等	6
ア 理事	6
イ 監事	6
(6) 評議員の概要	7
定員数・現員数等	7
(7) 教職員の概要	7
学校別専任・兼任教職員数	7
(8) 教職員男女比率	7
2 事業の概要	7～13
(1) ヤマザキ学園大学	8～12
① 教育研究	8
② 学生支援	8～9
ア 就職支援	8～9
イ 奨学金・特待生制度の充実	9
ウ 被災学生緊急支援	9
エ 退学者の低減	9
③ 国外・国内研修	9～10
④ 社会貢献・地域連携活動	10～11
⑤ 学生募集	11～12

⑥ 平成26年度 年間行事日程	1 2
(2) ヤマザキ動物専門学校	1 2 ~ 1 3
① 教育研究	1 2
② 学生支援	1 2
③ 学外研修・国際交流	1 2 ~ 1 3
④ 社会貢献・地域連携活動	1 3
⑤ 学生募集	1 3
⑥ 平成26年度 年間行事日程	1 3
(3) 事務組織の改編	1 3
(4) 規程の見直し	1 4
3 財務の概要と経年変化	1 4 ~ 2 0
(1) 決算の概要	1 4 ~ 1 5
① 募金事業の推進	1 4
② 主たる施設設備の整備事業	1 4
③ 収支計算書の概要	1 4 ~ 1 5
ア 資金収支計算書	1 5
イ 消費収支計算書	1 5
④ 貸借対照表の概要	1 5
(2) 財務状況の推移(経年比較)	1 5 ~ 2 0
① 収支計算書	1 5 ~ 2 0
ア 資金収支計算書	1 5 ~ 1 7
イ 消費収支計算書	1 8 ~ 1 9
ウ 貸借対照表	2 0
(3) 主な財務比率比較	2 0 ~ 2 1
① 帰属収支差額比率	2 0
② 人件費比率	2 0
③ 流動比率	2 1
(4) 借入金の状況	2 1

動物看護教育のさらなる発展に向けて

はじめに

ヤマザキ学園大学は、平成25年度に完成年度を迎え、平成27年3月には動物看護学部として156人の卒業生を社会に送り出すことができました。短期大学を改組し、わが国で初めての動物看護学部を設置、動物看護の新たな学問分野を切り開きました。完成年度を過ぎ、これまで以上に効率的な運営と魅力ある大学づくりを目指さなければなりません。

このような環境の中、平成29年（2017年）に創立50周年を迎えます。本学園は今後永続的な、そして一層の発展を目指して着実に歩み始めております。今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1 学校法人の概要

(1) 建学の精神・教育目標

本学園は昭和42年（1967年）の創立以来、創始者山崎良壽が掲げた、「生命（いのち）への畏敬」、「職業人としての自立」を建学の精神として、数々の変遷を経て発展してきた。その建学の精神は、「生命への尊敬の心を持つ」「動物愛護をとおして自分と社会を見つめる」「礼節や思いやりを大切にする」以上の3つの理念が含まれている。生きとし生けるものがともに尊重し、助け合い、それぞれの生命を輝かせて生きるという動物への深い愛情、人と動物の懸け橋になる人材の育成を目標としている。動物愛護の精神に基づき、動物を心から理解し愛する卒業生が、社会で優れた指導者となり、平和で楽しい世の中を築いていくことを理想としている。

また、人間とコンパニオンアニマルの関係における新しい学術分野を確立し、理想的な教育と研究の場を提供することを目標としている。

(2) 学校法人の沿革

学校法人ヤマザキ学園は、我国で初めて、動物に関する学問を研究し、動物の看護や飼育の正しい技術を教育するための機関として、昭和42年（1967年）に歩みはじめた。平成6年（1994年）にはアニマル・ヘルス・テクニシャン（ATH）の専門性が、広く社会に認められ、国内では唯一の動物管理学科を設けた3年制専修学校として認可された。平成16年（2004年）4月、創始者山崎良壽の夢を実現させ、「生命（いのち）を生きる」という教育理念を継承して、新たに「ヤマザキ動物看護短期大学」が開学した。平成21年（2009年3月）、より高度な専門知識を持つ人材の育成を目指し四年制大学の設置認可申請書を文部科学省に提出し、準備を進めてきたが、平成21年10月文部科学大臣より「ヤマザキ学園大学」設置の認可を受けた。さらに完

成年度以後を視野にいたした教育研究の充実発展のため、完成年度内の追加事業として南大沢2号館の隣接地を取得し、平成28年2月の完成を目指して3号館の建設を進めることとなった。

① 設立年月日

名 称 学校法人 ヤマザキ学園
法人成立の年月日 平成6年6月27日

② 学校設置年月日

ヤマザキ学園大学 平成22年度開設
ヤマザキ動物専門学校 平成 7年度開設

③ 学園の沿革

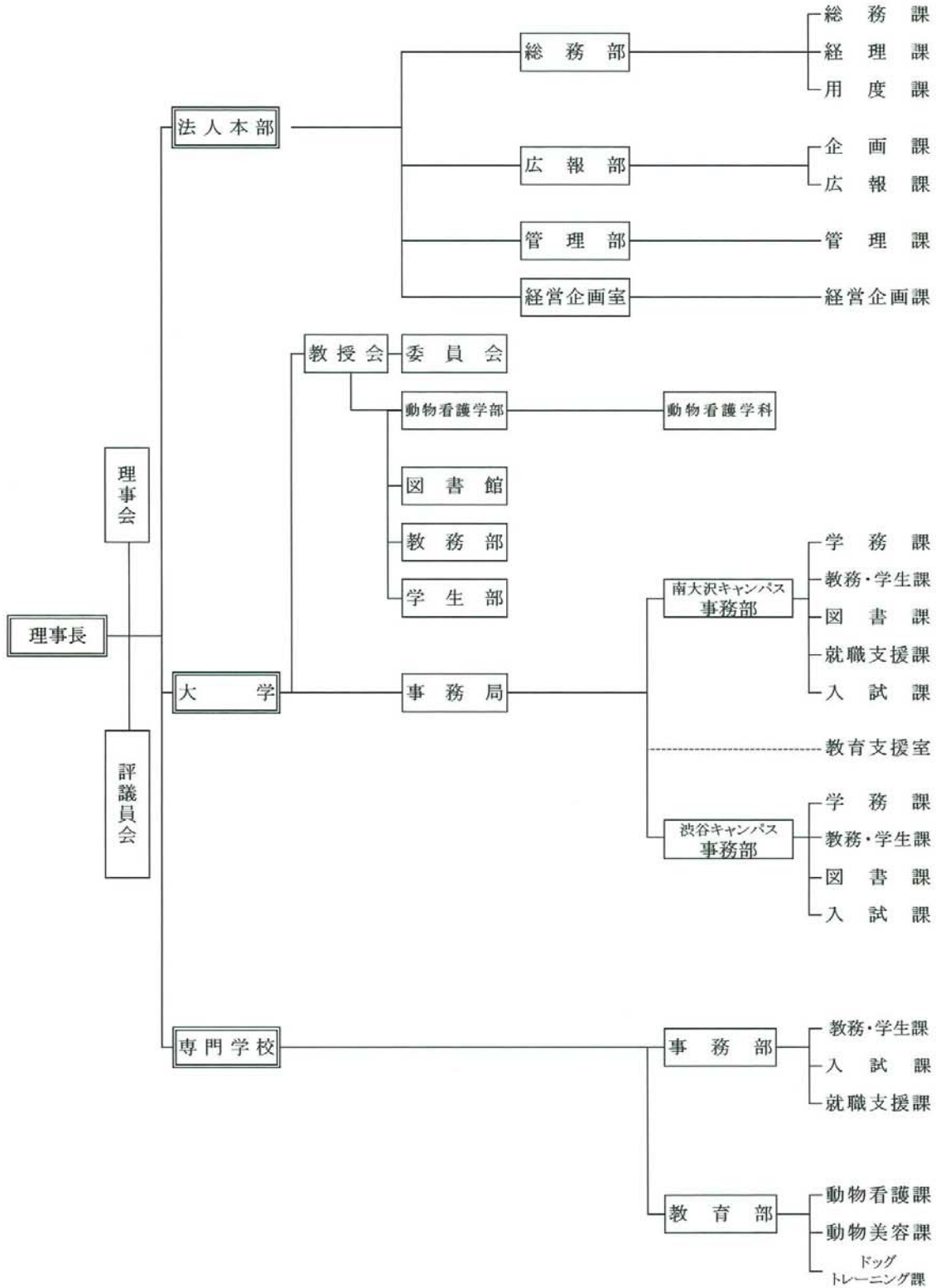
沿 革

昭和42年12月	創始者山崎良壽、渋谷区神泉町に世界発のイヌのスペシャリスト養成機関を創立
平成2年10月	創始者山崎良壽初代学長死去
平成3年2月	山崎薫第2代学長就任
平成6年6月	東京都知事認可により学校法人ヤマザキ学園設立 専修学校日本動物学院設置、山崎薫理事長就任
平成8年10月	創立30周年を機に、専門学校実習専用の神泉校舎新設
平成12年3月	渋谷区松涛に7階建専門学校本校舎新設
平成12年4月	専修学校日本動物学院を専門学校日本動物学院に校名変更
平成12年4月	専門学校日本動物学院の入学定員を320人、収容定員を960人に増
平成12年9月	群馬県富岡市にドッグトレーニング研修施設「グリーンフィールドズ」を設置
平成12年10月	渋谷区松涛にドッグトレーニング研修施設「レインボーフィールドズ」を設置
平成12年10月	富ヶ谷校舎に「日本動物図書館」を開設
平成15年11月	文部科学大臣より、短期大学設置のため学校法人組織変更認可
平成15年11月	文部科学大臣より、ヤマザキ動物看護短期大学設置認可
平成16年4月	ヤマザキ動物看護短期大学開学 動物看護学科（3年制入学定員100人）を設置
平成16年4月	専門学校日本動物学院をヤマザキ動物専門学校に校名変更
平成17年4月	渋谷区松涛に全天候ドッグトレーニング研修施設「レインボーフィールドズ」を設置
平成19年3月	ヤマザキ動物看護短期大学第1回卒業式

- 平成 19 年 4 月 ヤマザキ動物看護短期大学専攻科開設
- 平成 19 年 4 月 ヤマザキ動物看護短期大学の入学定員を 116 名、
収容定員を 348 名に定員増
- 平成 21 年 3 月 ヤマザキ学園大学設置のための認可申請を文部科学
大臣に提出
ヤマザキ動物専門学校動物管理学科入学定員を変更
(160 名)、動物看護学科(2 年制、入学定員 4
0 名)を新設。
- 平成 21 年 10 月 文部科学大臣よりヤマザキ学園大学設置認可
- 平成 22 年 3 月 南大沢 2 号館完成
- 平成 22 年 4 月 ヤマザキ学園大学開学
ヤマザキ動物専門学校動物看護・美容学科(3 年制、
入学定員 120 名)及び動物美容学科(2 年制、入学
定員 40 名)を新設
- 平成 22 年 5 月 南大沢 2 号館竣工披露祝賀会举行
- 平成 22 年 10 月 創始者山崎良壽先生逝去 20 周年偲ぶ会举行
- 平成 24 年 7 月 南大沢グリーンガラスロジ及びマルチフィールド
完成
- 平成 24 年 10 月 ヤマザキ動物看護短期大学廃止認可
- 平成 26 年 3 月 ヤマザキ学園大学第 1 回学位記授与式

④ 学園の組織表（平成26年4月現在）

平成26年度 ヤマザキ学園運営組織
平成26年4月1日



(3) 設置する学校・施設の位置

本部及び校舎の位置

法人所在地	東京都渋谷区松涛2丁目3番10号
ヤマザキ学園大学渋谷キャンパス	
渋谷1号館	東京都渋谷区松涛2丁目3番10号
渋谷2号館	東京都渋谷区富ヶ谷2丁目25番1号
南大沢キャンパス	
南大沢1号館・2号館	東京都八王子市南大沢4丁目7番2号
ヤマザキ動物専門学校	東京都渋谷区松涛2丁目16番5号(本校舎)
松濤校舎	東京都渋谷区松涛2丁目3番10号
神泉校舎	東京都渋谷区神泉町10丁目3番

(4) 学校・学科の学生数の状況

① 入学定員・収容定員・現員数 (平成26年5月1日現在)

ア ヤマザキ学園大学

学 部	入学定員	収容定員	学生数	
			入学者	在籍者
動物看護学部	180	720	183	724

イ ヤマザキ動物専門学校

学 校 名	入学定員	収容定員	学生数	
			入学者	在籍者
動物看護・美容学科	120	360	80	243
動物看護学科	40	80	19	43
動物美容学科	40	80	24	37
計	200	520	123	323

② 平成26年度中の学生・生徒の入試状況 (平成27年度入試)

ア ヤマザキ学園大学

学部・学科名	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
動物看護学部	180	293	280	275	173
動物看護学科					

イ ヤマザキ動物専門学校

学科名	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
動物看護・美容学科	120	77	77	76	76
動物看護学科	40	38	38	38	38
動物美容学科	40	8	8	8	8
計	200	123	122	122	122

(5) 役員（理事・監事）の概要

① 理事長・学長・校長等の異動

異動なし。

② 理事の異動

異動なし

③ 監事の異動

異動なし。

④ 定員数・現員数・氏名等（平成26年4月1現在）

ア 理事

選任区分	区分	氏名	定員	現員	常勤・ 非常勤別	摘要
寄附行為 第6条第1項第1号 (学長・校長)	学長 校長	山崎 薫 関 正勝	2名	2名	常勤 常勤	平成6年6月27日就任 平成22年7月1日就任
寄附行為 第6条第1項第2号 (評議員のうちから 評議員会が選任)	理事 理事	齊藤公紀 村松寿満子	2名	2名	非常勤 非常勤	平成15年11月27日就任 平成25年4月1日就任
寄附行為 第6条第1項第3号 (理事会が選任)	理事 理事 理事 理事 理事	山崎 緑 古谷久子 吉見充徳 山北宣久 堀江昭雄	5名	5名	常勤 非常勤 非常勤 非常勤 非常勤	平成6年6月27日就任 平成6年6月27日就任 平成6年6月27日就任 平成11年9月10日就任 平成20年4月1日就任
合計			9名	9名		

イ 監事

選任区分	区分	氏名	定員	現員	常勤・ 非常勤別	摘要
寄附行為 第7条 (理事会が選出した候 補者から評議員会の 同意を得て理事長が 選任)	監事 監事	大坪俊勝 玉木祥夫	2名	2名	非常勤 非常勤	平成18年7月1日就任 平成20年4月1日就任

(6) 評議員の概要

定員数・現員数等 (平成26年4月1日現在)

選任区分	定員	現員
寄附行為 第23条第1項第1号 (法人の教職員)	1名	1名
寄附行為 第23条第1項第2号 (卒業生)	9名	9名
寄附行為 第22条第1項第3号 (理事会において選任した者)	9名	9名
合計	19名	19名

(7) 教職員の概要

学校別・専任兼任教職員数 (平成26年4月1日現在) (単位:名)

区分	専任教員	兼任教員	職員	派遣員等	合計
ヤマザキ学園大学 <small>(教育助手含む)</small> 動物看護学部動物看護学科	49	20	28	4	101
ヤマザキ動物専門学校	28	37	13	0	78
法人本部	0	0	26	1	27
計	77	57	67	5	206

(8) 教職員男女比率

区分	男性	女性	合計
専任教職員	43	101	144
非常勤教職員	23	34	57
合計	66	135	201
比率	33%	67%	100%

2 事業の概要

多くの私学が厳しい状況にある中で、ヤマザキ学園は、高まる教育の質的向上への要求に応えるために、学園を挙げて教育研究に取り組んできた。我が国は、未曾有の災害の中で経済情勢が底の見えない不況から緩やかな回復傾向にあるといわれているが、経済の見通しについては不確実性がみられる。本学園は、今後永続的な、そして一層の発展を目指してヤマザキ学園大学を開学し平成25年度に完成年度を迎えた。こうした状況を踏まえ以下に示す諸事業を展開した。

(1) ヤマザキ学園大学

① 教育研究

平成 25 年度に完成年度を迎えた本学は、平成 26 年度には、これまでの教育研究内容を社会のニーズに従って一部見直しながら変更を加え、学生にとってより有効な動物看護学教育および研究の強化に配慮した。すなわち、教育に関しては、教養教育科目および専門教育科目の充実を中心に一部科目を加えた。特に、教養教育科目として一年次に「動物とジャーナリズム」を加え、伴侶動物とヒトとの関係について教授した。また、専門教育科目では、動物看護師に必要な専門英語を教授する為に、3 年次に「アドバンストイングリッシュ」を設定し、卒業論文作成あるいは将来の就職に必要な文献の読破を中心に教育が行われた。更に、専門教育科目として「動物歯科学」及び「動物歯科学実習」を専門応用科目として設定し、動物看護師に必要な不可欠な歯科分野の教育を実施した。同様に、将来における我が国の超高齢化を見据え、ヒトの高齢化、犬と共に歩くことによる身体的精神的有用性について、3 年次に「ジェロントロジーとドッグウォーキング」を設定した。以上の科目は、動物看護学を教育する他大学には設定されていない本学独自のユニークな授業であり、将来に向けて更に特徴を出して行く事ができる授業であると考えている。

卒業論文に関しては、教員が学生の指導に当たり、卒業論文作成後に各コースから選出された 6 名の学生が代表して、卒業論文内容を報告した。昨年の第一期生の発表と比較して、発表内容、方法共にかなり向上していたとの感想も聞かれ、研究の必要性を教授することができたと考えている。

研究に関しては、これまで個人研究と共同研究の二本立てで進んできたが、共同研究費に関しては、基本的には、外部から公的研究費を取得して研究する方向が示され、これまでの共同研究費を教養機器整備管理費と名目を変更して運用することが研究委員会で検討され、実施された。公的研究費に関しては、平成 26 年度には、新規に科学研究費一件が研究代表者として獲得された。公的研究費の獲得に関しては、平成 26 年度の時点で、本学も数件の実績があることから考え、今後も公的資金獲得数の増加が期待されるが、一方では、その運用について極めて厳しく規制されており、今後における公的研究費の取り扱いに関しては、本学に専門の部署を置いて対応することが必要であるとの意見もあった。一方、個人研究費に関しては、平成 25 年度と同様な方法で運用され、その成果発表が期待される。

動物病院実習並びにインターンシップに関しては、動物看護学教育の成果が問われる内容であることから、動物病院実習・インターンシップ実行委員会が中心となって綿密に実習計画が作成され、それに基づいて実習が行われた。特に、昨年の第一期生における本実習に関する反省会を開催し、学生から提案された様々な意見を検討した上で、今年度の実習に反映させる形で実習が行われたことから、実習に対する本学の姿勢が明確になったと同時に、受け入れ側に対しても、よりよい印象を与えることができたと思われる。

② 学生支援

ア 就職支援

今年度は 2 期生の卒業年度を迎え、前年度に引続き就職委員会、クラス

アドバイザー、卒業論文指導教員及び就職支援課の4者が一体となって学生の就職指導・支援に注力した。クラスアドバイザー及び卒業論文指導教員においては学生との個人面接を実施する傍ら、就職支援課では動物病院や動物関連企業等に受入活動を展開した。

授業においても「キャリアマネジメント入門」を中心に学生のキャリア形成意識を高め、インターンシップをとおした就業体験により職業意識の育成及び事務的知識の修得に努めさせた。全学生を対象とした就職支援プログラムにおいても、就職委員会と連携した学生の就職意識調査や就職セミナーの開催により、学生個々人のキャリアアップ養成に努めた。

その結果、今年度は全卒業生に対し81%、就職希望者の95%の就職実績を達成できた。

イ 奨学金の充実

公的奨学金制度である日本学生支援機構、地方自治体の奨学金に加え、本学独自の特待制度を見直し、学費分納・延納制度を充実させた。

在学生については、向学心に富み学力に優れ、将来の動物看護に関する研究をめざす学生の人材育成を目的とする本学園独自の山崎良壽記念

奨学金制度は145名に授与された。平成26年度入学時の特待生制度の受給学生は90名であった。

また、日本政策金融金庫の教育ローン、株式会社ジャックスの教育ローン及び株式会社オリエントコーポレーションの教育ローン等、学生支援に努めた。

ウ 被災学生緊急支援

東日本大震災の被害を受け、修学困難な学生を支援するために学園女子寮の無償提供をおこなった。平成26年度入学試験合格者に対しても東日本大震災の被災学生支援及び学園女子寮の無償提供を説明した。

エ 退学者の低減

退学者の低減については、常にクラスアドバイザーとアシスタントアドバイザーの連携による相談をし、対応してきたが、カウンセリングルームでの指導・相談に努め、平成26年度にはカウンセリングを利用した件数が84件となり、特にUniversity Personality Inventory (UPI) テストの実施による相談を充実させ、平成25年度の退学率3.1%に対して、平成26年度は2.3%に低減した。

③ 国外・国内研修

本学園の学外・学内研修は昭和46年から今日にいたるまで長きにわたる実績を有しており、本年度はアメリカにおいて10日間の研修を実施し、研修をとおして国際感覚と教養を高めることに努めた。また、国内研修は北海道八雲牧場で飼育実習体験はじめ、産業動物と人間との関係についての領域について、新たな見識の向上をはかった。

この研修を通して、学生は正課の授業に即した学修のとどまらず、広く動物と人間の係わりにおける豊かな教養の涵養と研鑽をかさねた。

④ 社会貢献・地域連携活動

本学は地域に開かれた大学として特に八王子市、八王子教育委員会、八王子学園都市大学、大学コンソーシアム八王子との連携を密にした活動を積極的に推進してきた。特に、恒例となっている八王子市内に居住する小学生を対象とした「動物とのふれあい」イベントは地域の好評を得ており、各小学校で高く評価されている。

また、南大沢地域住民との連携については、学生ボランティアが地域の交通安全指導で活躍した。また、せせらぎ祭り、八王子祭に学生がその運営に参加した。

大学コンソーシアム八王子においても、加盟大学として積極的に協調し指針に沿った活動をおこなっている。

本学のボランティアクラブの活動についても地域社会の要請に基づく活動を行なった。

- a 動物愛護週間中央実行委員会主催「動物愛護フェスティバル」において教職員と学生による健康アドバイスを実施した。
- b 八王子学園都市推進会議による「いちょう塾」は大学コンソーシアム八王子加盟校23校、地域有識者、招聘講師等によって開講され、その成果は国内でも実績のある社会人教養講座として認知されている。

本学では、学内の開講講座の提供し、八王子学園都市での講座に講師を派遣した。

本学及び学園都市大学の開講講座及び公開講座

(前期)

【開講講座】

「動物公衆衛生学」 本田 三緒子 講師

「寄生虫学」 内田 明彦 教授

「イヌの行動学」 堀井 隆行 助教

「コンパニオンバードの特性論」 島森 尚子 准教授／小嶋 篤史
兼任講師

【公開講座】

「ヒトと動物の死生学～現代社会における人と動物を考える～」

新島 典子 准教授

「イヌの行動と健康管理～異常のサインを見極める～」

堀井 隆行 助教

「動物危機管理学～災害や事故、そして感染症を考える～」

本田 三緒子 講師

「英詩を聴くⅡ～近世の英詩を歌で楽しもう～」 島森 尚子 准教授

「現代医療の光と陰～健康が義務となる社会～」 関 正勝 副学長

(後期)

【開講講座】

「生命倫理学」 関 正勝 副学長

「ヒトと動物の感染症」 内田 明彦 教授／鈴木 友子 助教

「ペットビジネスマネジメント」 赤羽根 和恵 助教／前原 晴彦
兼任講師

「高齢者心理ケア論」 小倉 啓子 教授

【公開講座】

「緊急災害時の動物救援～もう一人の家族を守るために～」

会田 保彦 教授

「身体障害者補助犬～一ヒトを支える犬たち～」 山川 伊津子 助教

「イヌの問題行動入門～原因から入門的対処まで～」 堀井 隆行 助教

「犬の毛の遺伝～毛色、毛の長さ、巻き毛を決める遺伝子～」

小黒 美枝子 教授

- c 「絆祭」(大学祭)は南大沢キャンパスで開催された。第3回協賛公開講座「ドッグウォーキング」では「ヒトがイヌと歩くということ」を体験した。今年度も地域住民の大勢の愛犬家がイヌとともに参加して開催、盛況を博した。
- d 八王子市・八王子市教育委員会後援「子ども体験塾—イヌとなかよくなるうー」では、公募抽選による小学生にイヌとの触れ合い体験を実施した。
- e 八王子市・大学コンソーシアム八王子後援による「八王子まつり」においては、地域の人々と交流をはかった。
- f ボランティアクラブによる活動も行われているが、昨年度に引き続き、東日本大震災の動物救援物資の仕分け活動をおこない被災地との連携活動を展開した。
- g 本学主催の「こどもパートナー」の講座には学生7名が参加して認定講座を受講し、その資格を取得した。今後のさまざまな機会にボランティアとして活躍することが期待される。
- h 八王子市主催「第65回 全関東八王子夢街道駅伝競走大会」に本学男子1チームと女子1チームが参加し、特に女子チームの活躍が注目を集め、大勢の学生、教職員の声援に応じて全区間において健闘した。

⑤ 学生募集

入学志願者の獲得に対しては積極果敢な計画に基づき、募集委員会による学生確保の検討会を開催して、本学の特色ある教育の説明に全学を挙げて取り組んできた。

年間行事実績

合同説明会 4回 教員対象説明会 4回 オープンキャンパス 6回ミニオー

ブンキャンパス 3回 特別企画 2回 ガイダンス 300会場教職員による高校訪問 800校。特に「保護者説明会」では、本学の志願者に保護者の理解が必要として実施するもので、積極的な質疑が本学の特色ある教育の理解につながったことが確認された。

また、各行事においては、特に卒業後の就職状況について詳しく説明し、進路を検討している学生に適切な資料を提供し、対象者の進路決定支援についての取り組みについての理解を得ることができた。

本年度のオープンキャンパスの特色は、志願者確保に対する教職員の連携を強化し、本学の魅力を訴えて共感を得て、志願者のニーズに応えるものとなった。

特に、教員の積極的な協力を得たことで参加者の理解を得ることができた。

⑥ 平成26年度 年間行事日程

入学式	平成26年	4月	8日	(火)			
授業開始	平成26年	4月	9日	(水)			
前期終了	平成26年	9月	23日	(火)			
後期開始	平成26年	9月	24日	(水)			
後期終了	平成27年	3月	31日	(火)			
絆祭	平成26年	11月	1日	(土)～平成26年	11月	2日	(日)
創始者記念礼拝	平成26年	10月	22日	(水)			
海外研修	平成26年	9月	2日	(火)～平成26年	9月	11日	(木)
国内研修	平成26年	9月	18日	(木)～平成26年	9月	21日	(土)

(2) ヤマザキ動物専門学校

① 教育研究

校内で行われている授業のほかに、社会の一線で活躍している文化人や専門家によるセミナー授業、獣医学系大学や動物園でのエクスターン授業、文化祭やスポーツデーなどの学校行事をとおして、現場での即戦力として活躍できる「総合力」を育成している。本年度は、姉妹校のヤマザキ学園大学の教員4名に特色あるセミナーを依頼した。

② 学生支援

本校では、就職内定までのプロセスとして、1年生から就職活動に備えたカリキュラムを設けている。平成25年度から、計数等基礎学力が不足している1学年生に対しリメディアル教育を実施している。また、インターン研修では併設の動物病院とグルーミングサロンを実際に体験し、卒業年次では実社会における研修を実施している。その結果本年度は、全卒業生に対し87%、就職希望者の内95%という高い実績を継続達成できた。尚、文部科学省の「就職率」の取り扱いについての通知に従い、自営業、家事手伝い、進学等の数値は含めていない。

③ 学外研修・国際交流

平成26年度は、姉妹校のヤマザキ学園大学と合同でアメリカ研修

旅行を実施した。参加者は62名。うち専門学校生は24名であった。動物先進国アメリカの獣医学系大学や本場のドッグショー等を見学した。

④ 社会貢献・地域連携活動

動物愛護週間中央行事実行委員会が主催する「動物愛護フェスティバル」に本学園として参加した。会場には、本校のグルーミングの教員による実演も行われ、本学園のブースには多くの方が来場された。動物看護師の地位向上や動物福祉活動の一環として、松涛校舎1階に公益社団法人日本動物福祉協会新東京支部を置きイヌとネコに対して新しい飼い主を探す「ペットハッピーホームプログラム」や、渋谷区が主催し地域交流を目的とした「せせらぎまつり」へのブース出展を実施している。

⑤ 学生募集

本校をこれまで以上に知っていただくために、年間を通して姉妹校との合同説明会、お仕事体験、体験入学、模擬授業等、様々なイベントを40回開催した。本校がイベント内容の種類を増やした事由は、四年制大学への進学志向のなかで専門学校の特色をアピールするためである。結果は、昨年と比較して入学者マイナス1名とほぼ同水準。厳しい状況ではあるが、入学辞退者が1名も出なかったことはプラス材料である。また、入学者の高校時平均評定値が初めて3.7(5段階)を超えた。18歳人口が減少しており、今後ますます入学者の確保が難しくなってくると予想される。本校としては姉妹校の大学と連携し募集活動をおこなうことにより、専門学校のイメージアップを図る。指定校推薦入試の実績校を中心に募集活動を継続し、更なる信頼関係を確立していく。

⑥ 平成26年度 年間行事日程

授業開始(2、3年生)	平成26年4月3日(木)
入学式	平成26年4月8日(火)
授業開始(1年生)	平成26年4月9日(水)
海外研修旅行(希望者)	平成26年9月2日(火)～11日(木)
前期終了(3年生)	平成26年9月30日(火)
前期終了(1、2年生)	平成26年10月6日(月)
創始者記念礼拝	平成26年10月22日(水)
あしあと祭	平成26年11月2日(日)、3日(祝)
スポーツデー	平成26年12月12日(金)
卒業証書授与式	平成26年3月10日(火)
後期終了	平成26年3月31日(月)

(3) 事務組織の改編

事務組織の効率化を目指して、事務組織の改編を検討した。

(4) 規程の見直し

ガバナンスの確立と教育目標達成に向けて各規程を見直し、実務的な変更を行なった。

3 財務の概要と経年変化

(1) 決算の概要

私立学校の経営環境は年々厳しさをましている。このような状況にあつて、本学園は、教育研究機関としての社会的使命を果たすために以下の事業を実施するとともに、予算の適切な編成と執行に努めた。平成26年度決算は、四年制大学が完成年度を迎えたということもあり事業に掛かる経費は減少したが、将来を見越した校舎建設に関する経費が発生している。一般の経費は、徹底した予算管理と経常経費の節減を図りながら予算執行を行った。また、収入面においては、大学完成年度までの段階的な学生数の増加に伴い学生生徒等納付金収入は安定してきた。国の経常費補助金は大学の完成年度を迎え増加している。大学の年次進行に伴い収支は安定してきている。大学の学生募集については、入学定員を確保した。専門学校においては、前年度と同様に定員は確保できていない。

学校会計と企業会計の違いはその目的にある。企業会計が営利を目的とし、損益計算書によってその成果について正しく捉えることによって収益力を高めることを目的にしているのに対し、学校会計は教育研究の遂行を目的として、企業よりも高い公共性から安定かつ永続性を保持した経営を目指すことを目的としている。そのため、学校法人は、学校法人会計基準に従って会計処理を行なっている。その概要は、以下のとおりである。

① 募金事業の推進

本年度も教育研究環境のより一層の充実を図るため募金事業を行った。学園関係者各位より約1千8百万円の浄財をご寄付いただいた。感謝を申し上げる。

② 主たる施設設備の整備事業

主な整備事業は次のとおりである。

ア 南大沢キャンパスの3号館新築工事に関わる設計監理料を支払った。

イ 南大沢キャンパスに後援会よりデスクトップパソコン、ピクニックテーブルをご寄付いただいた。

ウ 専門学校神泉校舎にプロジェクターを取り付けた。

エ 教育研究用の主な備品として、渋谷キャンパスにおいて生物顕微鏡20台を購入した。

③ 収支計算書の概要

ア 資金収支計算書

資金収支計算書は、学校法人における当年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当年度における現金・預金の顛末を明らかにすることを目的としている。本学園の平成26年度の資金収支計算書は、資金収入の合計が前年度繰越支払資金23億2千万円を含め40億3千万円となり、資金支出の合計が14億4千万円(前年度比1億3千万円の増)で、次年度繰越支払資金が25億9千万円となった。

イ 消費収支計算書

消費収支計算書は、学校法人における当年度の消費収入(負債とされない収入である帰属収入から基本金に組入れる額を控除したもの)・消費支出の均衡状態を明らかにすることを目的としている。本学園の平成26年度の消費収支計算書は、帰属収入の合計が17億5千万円(前年度比2千万円の増)となり、基本金を8千万円組み入れたことにより消費収入は16億7千万円となった。消費支出は合計が15億2千万円(前年度比2千万円の増)で、今年度は1億5千万円(前年度比7千万円の減)の消費収入の超過となった。

④ 貸借対照表の概要

貸借対照表は、一定の日(平成27年3月31日)における学校法人の財政状態を明らかにするため作成するものである。本学園の平成26年度の貸借対照表は、資産総額が120億円となり、前年度と比較すると1億5千万円増加している。一方負債総額は、13億9千万円で、前年度より9千万円減少している。

本学園の平成26年度の計算書の概要及び経年の状況は以下のとおりである。

(2) 財務状況の推移(経年比較)

① 収支計算書

ア 資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部	22年度	23年度	24年度	25年度	本年度
学生生徒等納付金収入	1,356,498	1,289,258	1,368,500	1,647,260	1,647,085
手数料収入	10,902	12,960	11,495	11,539	10,729
寄付金収入	13,410	14,170	12,874	11,620	18,266
補助金収入	16,932	52,242	55,608	50,123	67,566

資産運用収入	6,127	5,034	578	1,212	862
資産売却収入	0	0	14	0	0
事業収入	0	0	0	0	0
雑収入	914	1,455	4,320	1,759	1,721
借入金等収入	0	500,000	0	0	0
前受金収入	662,155	682,514	800,861	791,267	759,181
その他の収入	405	2,689	9,190	4,237	1,492
資金収入調整勘定	△731,899	△665,441	△683,850	△803,050	△793,300
前年度繰越支払資金	2,244,186	2,015,079	1,694,106	1,910,139	2,320,459
収入の部合計	3,579,630	3,909,960	3,273,696	3,626,106	4,034,061

支出の部	22年度	23年度	24年度	25年度	本年度
人件費支出	633,479	661,412	699,341	740,825	745,040
教育研究経費支出	287,540	277,329	312,847	305,957	330,099
管理経費支出	376,969	287,544	288,532	263,611	249,910
借入金等利息支出	0	307	3,989	4,000	3,732
借入金等返済支出	0	0	0	5,200	62,400
施設関係支出	25,484	988,348	48,037	913	40,903
設備関係支出	103,274	23,350	28,817	10,385	19,688
資産運用支出	0	0	0	0	0
その他の支出	175,256	36,589	62,770	78,901	103,576

資金支出調整勘定	△37,451	△59,025	△80,776	△104,145	△106,599
次年度繰越支払資金	2,015,079	1,694,106	1,910,139	2,320,459	2,585,312
支出の部合計	3,579,630	3,909,960	3,273,696	3,626,106	4,034,061

イ 消費収支計算書

(単位:千円)

収入の部	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	本年度
学生生徒等納付金	1,356,498	1,289,258	1,368,500	1,647,260	1,647,085
手数料	10,902	12,960	11,495	11,539	10,729
寄付金	15,546	14,571	20,350	16,906	20,211
補助金収入	16,932	52,242	55,608	50,123	67,566
資産運用収入	6,127	5,034	578	1,212	862
資産売却差額	0	0	14	0	0
事業収入	0	0	0	0	0
雑収入	914	1,530	4,320	1,809	1,721
帰属収入合計	1,406,919	1,375,595	1,460,865	1,728,849	1,748,174
基本金組入額合計	△251,303	△406,553	△52,407	△7,690	△76,995
消費収入の部合計	1,155,616	969,042	1,408,458	1,721,159	1,671,179

支出の部	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	本年度
人件費	641,271	671,152	710,043	740,997	752,608
教育研究経費	452,692	436,283	456,043	453,314	479,088
管理経費	392,190	318,403	318,498	295,273	279,305
借入金等利息	0	307	3,989	4,000	3,732
資産処分差額	0	0	406	0	450
徴収不能引当金繰入額	1,824	0	862	1,036	898
徴収不能額	0	0	240	0	0
消費支出の部合計	1,487,977	1,426,145	1,490,081	1,494,620	1,516,081
当年度消費収支超過額	△332,361	△457,103	△81,623	226,539	155,098
前年度繰越消費収支超過額	348,007	15,646	△438,550	△506,581	△274,446
基本金取崩額	0	2,907	13,592	5,596	3,233
翌年度繰越消費収支超過額	15,646	△438,550	△506,581	△274,446	△116,115

ウ 貸借対照表

(単位:千円)

科目	年度				
	22年度	23年度	24年度	25年度	本年度
固定資産	8,957,985	9,778,555	9,693,133	9,529,103	9,410,973
流動資産	2,019,721	1,702,225	1,915,115	2,325,875	2,591,025
資産の部合計	10,977,706	11,480,780	11,608,248	11,854,978	12,001,998
固定負債	33,923	543,664	549,165	486,937	432,105
流動負債	719,360	763,243	914,426	989,155	958,914
負債の部合計	753,283	1,306,907	1,463,591	1,476,092	1,391,019
基本金の部合計	10,208,777	10,612,423	10,651,238	10,653,332	10,727,094
消費収支差額の部合計	15,646	△438,550	△506,581	△274,446	△116,115
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	10,977,706	11,480,780	11,608,248	11,854,978	12,001,998

(3) 主な財務比率比較

本学の財務状況を全国平均値（平成26年度版日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政 大学法人全国平均（医歯系法人を除く）」）により比較してみると次のとおりである。

① 帰属収支差額比率

この比率がマイナスになる場合は、当年度の帰属収入で消費支出を補うことができないことの反映であり、基本金組入前で既に消費支出の超過の状況にある。この全国平均は5.2%となっている。本学園は22年度からマイナスとなっていたが、年々改善が見られ、平成25年度よりはプラスに転じており26年度も13.3%とプラスになっている。

② 人件費比率

人件費の帰属収入に対する割合を示す重要な比率である。本学園は43.1%となっており、全国平均は52.4%となっている。50%以下を維持するのが安定的といわれている。

③ 流動比率

一年以内に償還又は支払わなくてはならない流動負債に対して、現金預金又は現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、法人の短期的な支払い能力を判断する重要な指標の一つである。ただし、学校法人の流動負債には前受金の比重が大きいことや、資金運用の点から長期の有価証券、特定預金等、長期的な資金を留保していることがあるので、この比率が低くても資金繰りに窮しているとは限らない。一般の金融機関は200%以上であれば優良とみなしている。全国平均は245.9%となっており本学園は270.2%となっている。

(単位:%)

比率	算式(×100)	22年度	23年度	24年度	25年度	本年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	-5.7	-3.7	-2.0	13.5	13.3
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	128.8	147.2	105.8	86.8	90.7
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	96.4	93.7	93.7	95.3	94.2
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	45.6	48.8	48.6	42.9	43.1
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	32.2	31.7	31.2	26.2	27.4
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	27.9	23.1	21.8	17.1	16.0
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	280.8	223.0	209.4	235.1	270.2
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金※1}}$	7.4	12.8	14.4	14.2	13.1
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金※2}}$	93.1	88.6	87.4	87.5	88.4
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.9	95.5	95.5	95.6	95.9

※1 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額

※2 総資金 = 負債 + 基本金 + 消費収支差額

(4) 借入金の状況

今年度の新規の借入はない。